トットの欠落帖　　黒柳徹子　　新潮社

～欠落帖を書こうと思ったわけ「神様はどんな人間にも、必ずとび抜けた才能を一つ与えてくださっている」女学生の私はこの話に自分の生きる道を見つけた思いがして手当たり次第に試してみることにした。でもどれ一つとして才能の片鱗さえ見せてくれるものはなかった。そのうち突然私は悲しい事に気が付いた。それは才能があるどころか恐ろしい程欠落人間という事だった。

例えば私は王監督にどうして選手はみんな三塁に走ってはいけないのですか？と聞いた。広辞苑で念のために「欠落」は「あるべきものが抜けていること」初めは笑ったが「反省」・・・・・・と思いながら始めることにした。

＊精進湖の眺め～富士五湖の一つ精進湖に行って、旅館のおばさんに「なんて奇麗なの！この山なんて言う山です？」・・・1 分ぐらい私を見つめながら「富～士～山～でェすゥよ！」というが早いか、部屋から消えた。

＊ペンギン～六本木を歩いていた夜の事だった、私はデートしていて「あらペンギン！なんて珍しいの？ポリバケツをのぞいているなんて」

彼は「驚くときはよく見てからにした方がいい、人騒がせになるからね」よく見ると猫だった、その人とはそのままになってしまった。

＊見ましたか？～ある深夜 NHK が用意してくれたタクシーの中で夜目にも大きな銀色の飛行物体があった、わあ！と叫ぼうと思ったが、あのペンギンのショックを思い出し、しっかり見てから運転手さんに「見ましたか？」運転手さんも見ましたと答えた、私は興奮して「あれは空飛ぶ円盤でしょう？」運転手さんは驚いて振り返り「あれ、飛行機ですよ！」よく見ると飛行機が台の上に載って大きなクレーン車が前で引っ張っていた。

＊病院～1 週間の人間ドックで医院長の回診でーす！の声があり私は洋服を着ていたので、ベットの上に正座した、仕事に行くのかいと言って先生は右手を私の方に差し出したので、それはもう握手しかない、少し変だとは思いながら右手を出して握手した、握手ではないと分かったのは先生が手を少しづつずらして手首の脈のところに持っていったからで、看護婦さん達は笑いをこらえて顔を見合わせていた。

＊手袋～銀座のデパートで茶色の手袋が欲しいと店員さんに見せて貰っていて、本当に色って難しいと思い後ろに誰もいないのを確認してこのブーツと同じ色ですと・・・ケースの向こう側の店員さんに見えやすいように足を頭の近くまで上げブーツを見せたところで後ろのエレベーターのドアが開き中年の男性がびっくりした顔をしていた、その時の私はミニスカートでした！

＊相撲～テレビの生番組で私が司会をしていたワイドショウである部屋の親方がゲストで見えた、私は丁重にお辞儀して「親分！今日は、よく、いらして下さいました」親方は笑いながら「黒柳さん親分はまずいんで、親方と呼んでください！」その時初めて親分と親方の違いが分かった。

横綱の輪島さんにインタビューした時はスムーズにいったが本番が終わった後で輪島さんが大笑いしながら「今日は横綱さん、輪島横綱さん、関取！おすもうさん！」と四通りに呼ばれて面白かったよ！と云われた。

＊マウンド～「ご紹介します大洋ホエールズの内野手の山下大輔さんです、私は先ず当り障りのないことから伺いましょうと思い「初めてプロのマウンドにお立ちになった時どんな気持ちでした？」「僕マウンドには立たないんですけど」「失礼ですけどどこにお立ちになるんですか？」「僕はバッターボックスに立つんです」「じゃ、マウンドにはどなたが？」「あれはピッチャーです」カメラマン達はおかしくてカメラが揺れた。

サイン～広島の古葉監督が優勝した時に、かなり野球のことを勉強して分かっているつもりでいろんなサインがおありでしょうが一つぐらい教えていただけませんか、秘密にしていらっしゃるのは分るんですがホームランのサインはどうおやりになるのですか？

＊免許書～車に同乗している試験官から「一番気を付ける事はバックミラーの見方が足りない事です」と云われ「あれ？バックミラーついていました？」 私だけではありません作家の永六輔さんの美しい奥様は教習所の試験官から「前を開けてください（ボンネットの事）」と云われて「はい」と言ってブラウスの前のボタンを開けたんです。

＊夕日の輝き～千葉の海で私は生まれて初めて水平線の向こうに太陽が沈んでいくところを見てスッカリ感動した！私は明日の朝ここにきて太陽が昇る所を見ましょう！と言ったら皆が黙っているのでビックリ！一人がポツンと云った「ここからは上がらないよ」テレビのディレクター達はみんな知っていたので、この話を母にしたら「じゃあどこから昇るの？」娘も娘なら母も母とはこういうことを言うのかもしれない。

＊金沢産のバナナ～ユニークな番組の生放送で金沢郊外をワゴン車で走っている時にバナナが栽培してあるのを発見、訪問先の旦那に言ったらビックリした顔であれはキューリでしょう、地面に転がして腐らして種を取るんです。私は信じられずに帰りに車を止めて貰い手に取って見たがやはりバナナでしょうと皮を剥こうとしたら皮は剥けないが私はしつこく、どう見てもバナナですと繰り返した、このことは北陸放送中に大笑いにされた。

＊沖縄～生まれて初めての沖縄で濡れている車の窓から外を見ると猫たちが屋根の上にいる、沖縄の猫は雨が好きなんですか・・・いやあれは猫ではありません！シイサと云って獅子で屋根の瓦と同じように焼いてある、と云われ私はかなりビックリしたが心が休まった。

＊白昼夢～私の人生の中でたった一度だけ「これが白昼夢というものか！」としか云ういようのないスイスのベルン駅で降りた時には私だけで駅にはだれもいなかった、白い靄がかかったようなプラットホームで下に降りていく階段もない、どうやって外に出るのか方法がない・・・・・ホームから細い板が渡してあるのを見て、その板の先にレンガの壁に小さいドアの様なもの？おかしいと思いながら他に方法がないからドアを開いたら、おじさんがズボンを脱いでいて私を見るなり「ギャー」と叫んだ！これは白昼夢

だ！出口はどこ？出口はどこ？と繰り返した

＊山中湖の馬～音楽学校の生徒だったころ山中湖で少年の曳く大きな裸馬をみて突然に乗ってみたいと思い少年に声をかけた、その子はいいよと言って手綱を私に渡してくれた、馬は私を大人しく乗せて山中湖に足を踏み入れ、そのまま水中に入って泳ぎだした、私は止まらせようと「止まりなさい！」止めて！と叫んでも、がばがばと泳ぎだし私は腰の当り迄水につかり馬はどこまでも泳ぎ、とうとう山中湖の中心位まできてもう夕暮れで誰の姿も見えない、私は心の底から恐怖を感じ叫び続けて手綱を引いたり緩めたりお腹や首をたたいたり撫でたり必死になって馬の耳に口を寄せて優しい声で「すみませんあなたが気を悪くしていらっしゃることは、よくわかるんですけど岸に戻って頂けないでしょうか、そうしたらすぐに下りますからお願いします！」そうしたら馬は急に止まりブクブクと沈み「キャ！！」と私は大声でわめき、背中まで水に沈んだ、なんと馬はすぐに足を動かしＵターンして岸を目指して泳ぎだし水際まで戻った、私は馬に謝り「心を込めてごめんなさい！最初にあなたにも乗っていいかお伺いすべきだった」と謝った、少年は面白かった？と私に聞き、私は「ありがとう身体を拭いてあげてね」と

＊オリンピックの馬～週刊文春が「私はこれになりたかった」シリーズで“競馬の騎手”撮影場所は中山競馬場で私はヘルメットが小さくて頭に収まらないブーツも足の先が入っただけ、乗馬服ズボンは合わず、ぶかぶかで、乗る馬は来年の東京オリンピックに出場する立派な馬だった・・・・・馬は自分の厩舎が目に入ったらすぐに帰るから注意してください、と云われたが馬に乗った瞬間に馬が振り返り厩舎をめがけて猛スピードで駆け出した、そこはコンクリートで馬の細い足が折れたらとても弁償できない！私も上手に落ちる等あらゆる方法を考え、その時に山中湖でのことが閃いた、馬の耳にピッタリと口づけするようにして「お願い！ごめんなさいね、戻って頂けないでしょうか、写真を１枚撮るだけでおしまいですから」まるで嘘みたいだけど、馬は用心深く止まり皆が真っ青になっている処に戻り最高の写真が撮れた、それからは動物の写真を取るときは耳元で「お願い撮らせてね！」と、囁いてからいい写真を撮った、唯１度だけトドは酷く私の顔にどこかの水をひっかけた。

＊ご当地欠落～湯布院に行く前に大分で最も有名な“シロシタカレイ”を食べさせたい、と云われ。お店で目の前で塩焼きカレイの口に箸を突っ込んだ、力を入れ過ぎて箸はスタッフの顔に飛んでいき、お店の姉さんが私に「一体何をするんです！？」私はどれくらい白いか早く見たいんです,と云うと「一体、何が白いと思っているわけ？」私はびっくりして「だって舌が白いから白舌カレイっていうんでしょうが！」突然みんながワァ！！と笑った、お城の下の特別暖かい水が湧き出る海で育った特別のカレイ

＊ショートショート欠落～長嶋茂雄さんが監督をやめて次に何になる？とみんなが大騒ぎしている時に、読売のフロントになるらしいと聞いた。私は「それはいい、読売新聞社に入っていってフロントに長嶋さんが座っていたら皆が喜ぶ～巨人びいきの人はなぜか憤然とした、でも私にとってフロントと云えばテレビ局やホテルでいう「受付」以外

に考えられなかったんだから・・・

＊お祝いのご挨拶～私は生まれて初めて結婚式の披露宴に正式に招かれたのはNHK に入ってすぐで、私の 1 期上の東儀さんという女優さんがお嫁に行くことになった時で新郎を見てびっくり、ずーと通っていた教会の日曜学校で良く知っていて大人になっても顔を合わせていた人だ、東儀さんのお家は宮内庁の雅楽のお家柄で祝辞も優雅な雰囲気だった、突然司会の人が“では東儀さんの後輩を代表して”と、私を指名した、私はいい言葉が閃いて「おめでとうございます！私は新婦の後輩として今日お招きいただきましたが、実は私と新郎とは内縁関係でございます」途端に場内がシーンとして隣に座っていた同期の男の子が「座れよ！」と言って私の手を引っ張った、その子に私はまだ何も言っていないこれから言う事があるんだから！二人がごちゃごちゃ言っていたら今度は会場が大笑いになった、その後 NHK に行ったら皆から、内縁関係って言ったんだって、と聞かれたけれど答えようがなかった、ところが 2 日後の新聞に「内縁の妻刺殺される」という記事が出ていて、その時に初めて私は酷いことを言ったらしいと気づいた。

＊手が早い～数年経って俳優の名古屋章さんの結婚披露宴に招かれ、みんなは私に「内縁関係と云うんじゃないよ」と云った。私も大人になっいるんだから任せてくださいと自信を持っていた。一番言いたかったことは女優になったばかりのお嬢さんをこんなに早く見付けて射抜いた、その眼の速さと行動は素晴らしい！それだけ新婦は魅力的なんですという事だったが、だらだら言わず、もっとまとめてスパッと云った方がいいと、大きな声で「名古屋さんは大変に手が早くておめでとうございます！」まさかと思ったのに又、みんながドッと笑った、それからまた私は数年間、披露宴とは縁のない人間になってしまった。

＊欠落鳥～週刊誌の表紙になる事になり、ある有名な写真家のスタジオに行ったら、私の指先に小鳥を止まらせ私と小鳥が向き合う構図がいいということになった、小鳥はしっかりと私の指にしがみつき写真家は私に「鳥とキッスするような感じで少し笑って見て！」と言ったので私は唇を開いて小鳥に唇を近づけフラッシュが光ったと思うより早く小鳥は私の口の中に飛び込んだ、こんなに驚いたことはなかった、とにかく私は鳥の尾っぽを掴んで引っぱり出したら鳥の毛は全部逆毛みたいになりモシャモシャになって酷いみっともない鳥になってしまっていた。

（ 完 ）